

お知らせ

1. 本年4月から、私 田崎甫は 東京藝術大学音楽学部教育研究助手を勤めます。週3日、邦楽科の学生に「能」を教えます。
2. 来る5月から、山梨県都留市で「友垣サロン」を年4回開催します。
第1部 体験教室、第2部 鑑賞教室 出演：田崎甫・葛野りさ
主催：田崎甫、後援：都留宝生会、協賛：大西・アオイ財団
3. 2年目の「臥牛サロン」は、新企画が始まります。（7月29日から）

臥牛サロン 新企画

- 複数の曲に共通するテーマを解説し、各曲の謡と仕舞の見どころをたっぷりお楽しみ頂きます。
- サロンの開催は、奇数月（隔月）の下旬となります。
- 時間：18:30-20:00、参加費：自由席2,500円、椅子指定席 3,000円

二〇一九年四月二十二日（月）

臥牛サロン 第十回

能花筐の物語

プロデューサー

田崎 甫

（宝生流能楽師）

於 臥牛敷舞台

富士宮市粟倉南町一三二

舞台当主 高橋千洋

（富士宮市中央町在住）

出演者



田崎 甫
はじめ

シテ方宝生流職分
1988年 神奈川県生まれ、
叔父の宝生流能楽師 田崎
隆三に師事。2011年 東京
藝術大学音楽学部邦楽科卒
業、20代宗家宝生和英の内
弟子。同年「金札」で初シ
テ。2018年独立。九段「幸
宝会」主宰。2019年4月東
京藝術大学音楽学部教育研
究助手を拝任。



葛野 りさ
かどの

シテ方宝生流職分
平成元年生、富山県
富山市出身。20代宗
家宝生和英に師事。
平成23年東京藝術大
学音楽学部邦楽科卒
業。平成24年「清
経」ツレにて初舞台
を踏み、平成29年
「田村」で初シテ。

臥牛サロン

第11回	5月20日（月）	18:30～	能「杜若」の物語
第12回	6月17日（月）	18:30～	サロン1周年記念 能「半部」ほか
第13回	7月29日（月）	18:30～	（新企画）

お稽古：臥牛敷舞台にて【個人レッスン：謡・仕舞】

4月22日（月）	}	お時間はお問合せ下さい。 ※見学・舞台体験歓迎
5月 6日（月）		
5月20日（月）		

臥牛サロン次回ご予約・お問合せ

☎ 0545-38-9939 (たざき)

☎ 090-2757-0620

一 ご挨拶・花筐クルヒ

二 花筐サシクセ

三 花筐キリ

四 サロンタイム

「花筐」(はながたみ)

季節 晩秋

場所 越前国味真野(福井県)、大和国(奈良県)

シテ 皇子の恋人 照日前(てるひのまえ)

子方 継体天皇、もとは大迹部(おおあとべ)皇子

ツレ 照日前の侍女

ワキ 継体天皇の臣下

花筐クルヒ

恐ろしや 恐ろしや
世は末世に及ぶといへど
日月は地に落ちず
まだ散りもせぬ花筐を

5

あらけなやあらかねの土に落し給はば
天のとがめも忽ちに 罰あたり給ひて
我が如くなる狂気して とも物狂と
いはれさせ給ふな人にいはれさせ給ふな
かやうに申せば かやうに申せば
唯現なき花筐のかごととやおぼすらん
此君未だ其頃は 皇子の御身なれど
朝毎の御勤に花を手向け礼拝し
南無や天照皇大神宮天長地久と
唱へさせ給ひつつ
御手を合はさせ給ひし御面影は身に添ひて
忘れ形見までも なつかしや恋しや
陸奥のあさかの沼の花かつみ
かつ見し人を戀種乃
忍ぶもぢ摺り誰故ぞ乱れ心は君の為

19

花筐サシクセ (続き1)

物いひかはす事なきを
深く歎き給へば
李少と申す太子の いとけなくましますか
父帝に奏し給ふやう 李夫人は本はこれ
上界の嬖妾 華蕊国の仙女なり
一旦人間に 生るるとは申せども終にも
との仙宮に帰りぬ

37

泰山府君に申さく 李夫人の面影を
暫くここに招くべしとて
九華帳のうちにして

45

反魂香をたき給ふ

夜更け 人静まり 風すさまじく

50
月秋なるにそれかと思ふ面影の
あるかなきかにかげろへば

50

猶いやましの思ひ草
葉末に結ぶ白露の

手にもたまらで程もなく唯いたづらに消え
ぬれば

55
漂渺悠揚としてはまた 尋ぬべき方なし

55

花筐クルヒ (続き)

ここに来てだにへだてある月の都は名のみして
袖にもうつされず又手にも取られず
唯いたづらに水の月を望む猿の如くにて
叫びふして泣き居たり叫びふして泣き居たり

20

花筐サシクセ

忝なき御たとへなれどもいかなれば漢王は
李夫人の御別れを歎き給ひ
朝政神さびて 夜のおとども徒に
唯思ひ乃涙御衣の袂を濡らす
また李夫人は好色の 花の粧ひ衰へて
しをるる露乃床の上
ちりの鏡の影を恥ぢて
終に帝に見え給はずして去り給ふ
帝深く 歎かせ給ひつつ
其御形を甘泉殿の壁に寫し我も畫圖に立ちそ
ひて

23

25

30

ひて

35

明け暮れ歎き給ひけり
されどもなかなか 御思ひは増されども

19

花筐サシクセ (続き2)

悲しさの餘りに
李夫人の住み馴れし
甘泉殿を立ち去らず
空しき床を打ち拂ひ
ふるき衾古き枕ひとり袂をかたしく

56

60

花筐キリ

御遊も既に時過ぎて
御遊も既に時過ぎて
今は還幸なし奉らんと
供奉の人々御車やりつづけもみぢ葉
散り飛ぶ 御前を拂ひ
拂ふや袂も山風に
誘はれ行くや玉穂の都
誘はれ行くや玉穂の都に
盡きせぬ契りぞ
ありがたき

61

65

70